

第29回(2009年)児童図書館員養成講座カリキュラム

前期

		午 前(9:30~12:30)	午 後(1:30~5:00)	
6月29日	月		開講式	坂部 豪
30日	火	児童奉仕の運営・年間計画		川上博幸
7月1日	水	乳幼児サービス	島本まり子	障害のある子どもたちへのサービス 山内 薫
2日	木	子どもの文学の基本としての昔話		松岡享子 おはなしの実演
3日	金	図書館の魅せ方		押樋良樹 ブックトークの実演
4日	土	知識の本の編集 伊藤素樹(小峰書店)	図書館サービスと著作権 安発義彦	

後期

9月28日	月	児童資料(1) 外国の児童文学	早川敦子
29日	火	児童奉仕の実際(1) ストーリーテリング	内藤直子
30日	水	児童資料(2) 絵本	矢野 有
10月1日	木	児童資料(3) 日本の児童文学	宮川健郎
2日	金	児童奉仕の実際(2) 選書・蔵書構成	汐崎順子
4日	日	児童資料(4) 科学の本と科学あそび	塚原 博
5日	月	児童奉仕の実際(3) ブックトーク	杉浦弘美
6日	火	児童奉仕の実際(4) レファレンス	東京都立多摩図書館
7日	水	研修の自己評価とまとめ	坂部 豪

第28回児童図書館員養成講座受講生の感想から

- ・ 講義、実習を通じて伝わってきたことは、心の持ち様と多くの資料を知ることこそ基本である、ということだった。考えさせられたことは、人に伝えることの重要性と難しさである。今後ともこれらのことについてじっくり取り組んでいきたい。
- ・ 講習に伴う課題がとてつもないになった。言われたことをどのように読みとり、考え、仕上げるのか。この一連の流れこそ仕事を行うということである、と再認識できた。
- ・ 地方の小さい図書館から来て、全国的に著名な図書館の素晴らしい司書の方々と出会い、一流の講師から学ぶことが出来たこの経験は何事にもかえがたいものとなった。どうか、今後もこの素晴らしい講座に、地方の小さな図書館で頑張っている方々がたくさん参加して欲しいと願います。私も地元に戻ったら、この講座のことを多くの司書の仲間に伝えていきたいと思います。
- ・ 相談できる先輩や、いっしょに考えて学ぶことのできる場や仲間がいれば、自分の職場で困ったことや悩みがあっても乗り越えていけると思う。その意味でも、この研修は、学びの場だけでなく、人脈を広げる素晴らしい機会だと思う。
- ・ 自分が学ぶだけでなく、自分にできる役割をになうことで、この仕事をしている者としての責任を果たしていかなければいけないのだという自覚が目覚めたのではないかと思う。